

第273回くらしの植物苑観察会 令和3年12月18日(土)

『延喜式』にみる野菜・果物

清武 雄二(国立歴史民俗博物館 特任助教)

はじめに

古代にはどのような種類の野菜や果物があったのでしょうか。それらはどのように生産・調達され、そして加工や調理を経て消費されたのでしょうか。10世紀に編纂された法制書の『延喜式』にはそうした疑問を解決に導くヒントがたくさん記されています。

『延喜式』は、諸官司が職務上必要とする物品や様々な手続きが規定されています。このため、野菜・果物についても、生産地や貢納方式、栽培方法、消費用途などをうかがい知ることができるのです。以下、『延喜式』からわかる古代の野菜・果物の利用状況について、紹介していきます。

※古代では、野菜は単に「菜」ないし「菜蔬」といい、野菜は山菜類を指します。果物も「菓子」と表記されます。ここでは分かり易く現在の野菜・果物と同じ意味の表記として使用します。

生産地・貢納方式

諸国から生産される食材などの物品は、調や庸、中男作物といった税として年に一度、秋から冬にかけて都に貢納されます。野菜は蜀椒(サンショウ)、芥子(カラシ)、山薑(ワサビ)、沢蒜(ノビル)、島蒜(アサツキ)といった香辛料・薬味類が規定され、果物は栗の各種加工品や椎の実がみえます(『延喜式』巻24 主計寮上。以下、主計式上などと略記)。

ただし、ほとんどの野菜は、これらの税とは別ルートで御贄として調達されていました。御贄は供御(天皇の食材)の品として、指定された生産地から調達される生鮮食料品です。貢納の回数や時期も一定ではなく、都近くに菜園が設置され、生産されていました(内膳式)。何よりも新鮮であることが重視された、ということでしょう。

果物も御贄として調達されますが、野菜よりも保存が利くためか、遠方の諸国からも生産・貢納されました(宮内式・大膳式上)。その多くは菓子類を取り扱う大膳職で検品され、内膳司に収納されました(大膳式上)。このほか、内膳司が管理する菜園でも、梨、桃、柑橘類、棗、郁(ムベ。アケビ科の果物)などが栽培されています(内膳式)。

野菜の栽培品種・生産方式

内膳式には「耕種園圃」として菜園で栽培する大麦・小麦や大豆、小豆、大角豆といった穀類を含む24種の栽培品目が記されます。そこには1段(約990㎡)あたりの作付けに

用いる種の量、各種工程毎の必要労働数が規定され、犁（カラスキ）の利用のほか、肥料としての糞（コエ）の記載もみえます。これらの仕事は、もともとは先進的な農業技術として園池司という役所で園戸という専門の耕作集団が従事していたのですが、園池司は9世紀末に内膳司に併合され、園部もその頃までには解体されています。時代とともに一般にも栽培法が普及し、専門集団として困りこむ必要がなくなったのでしょう。

耕種園圃の条文には、現在は山菜としてあまり栽培されない蔕、薊（アザミ）、芹、水葱（ナギ。ミズアオイ科の水田雑草）のほか、葵といった現在では食用にされないものや蘇良自（ソラシ）というよくわからない品もみえます。このうち、蔓菁（アオナ。カブのこと）や蘿菔（オオネ。ダイコンのこと）は今日と同様に根菜としても利用されましたが、葉茎部も同じくらい重要な食用部位でした。

加工・調理

内膳司や大膳職で扱う野菜・果物は、供御や神饌、仏供に用いられるほか、宮廷の様々な儀式に伴う饗宴で消費されます。調理としては、生菜、羹の実、熬菁（イリナ）、茹菜などの表記が散見され、漬物類も大量に製造・消費されていました。

漬物類は、塩漬け、醬漬け、糟漬けのほか、菹（ニラキ）、須須保利（ススホリ）、搗（カチ）など現代では見られない種類もあります。菹は乾燥させた楡の皮の粉末を加えた漬物、須須保利は大豆や米を乳酸発酵させて漬け込んだもの、搗は細かく砕いて酵素を生成させて発酵させたものと考えられます。須須保利は、当時はまだ米糠の利用がみられず、大豆や米を利用していたのでしょう。また、果物も桃・柿・梨が塩漬けされています（内膳式）。

熬菁は野菜炒めですが、材料が「米一合五勺、麩醬五勺、茄子一顆」などと米の量が多く（大膳式下）、チャーハンのようなものだったかもしれません。生菜は野菜や海藻のほか、「糖一勺、酒二勺、酢三勺、醬三勺、塩二勺」が材料としてみえます（同）。ここには油がみえませんが、油は主殿寮が管理しているので別枠規定であることが多く、実際には調理に使用されていました。大膳式下には菓菜料として胡麻油がみえますので、これが野菜の調理に用いられたとすると、「生菜」の調味用ということになります。油と酢や塩などを混ぜてドレッシングを作り、サラダのように生菜を食したのでしょうか。

こうした調理法は再現実験などで具体的に明らかになっていくことが期待されます。

.....

次回予告 第274回くらしの植物苑観察会 令和4年1月22日（土）

「くらしの中に息づく植物-竹とササ-」（千葉県立中央博物館 天野 誠 氏）

13:30~15:30（未定） 苑内休憩所集合 申込不要 定員20名